

ふるさと奥尻通信

平成26年12月26日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

奥尻の島も風雪厳しくなってきました。毎年のこととは言え、ゆるくない時もあります。けれど、本当に不便な島であったなら、もうとっくに無人島になっていたはず。

特集 明治時代前半の奥尻の人々

明治時代になると奥尻島の開拓が本格化し、定住者が増えていきましたが、資料が残っていないこともあって、初期の頃(～20年代)の生活の様相を詳しく知ることはできません。

それでも、「早瀬忠太郎回顧録」(昭和17年口述筆記)に登場する地区名や人名を拾うことで、明治21・22年(1888・89)頃の集落を再現できそうです。以下は忠太郎少年(10歳未満)が見た、当時の奥尻の人々です。姓名の(?)は『奥尻町史』などから補筆しました。

- ・菰澗(～10戸):大滝与七、いそ(伯母)、南谷、田川(伊三郎?)(猟師・豆腐屋)
- ・茶津(～15戸):禿(智耀)、長崎(栄吉?)(草分け)
- ・東風泊:小林(文吾?)(練建網、島内最大手)
- ・塩釜沢(～30戸):若松(甚太郎?)(旧本陣)、上野(貞吉?)(草分け)、小川(吉次郎?)、横田別家、田中、菊地、小林本宅(婿の秋岡が郵便局長)、早瀬、太田広城戸長、阿部(叔母)、菅(母の里方)、横田本家(横田清助・安太郎)、神山(準一郎?)(森林看守)、田中作兵衛、高山乾道(地藏堂:後の乾清寺)



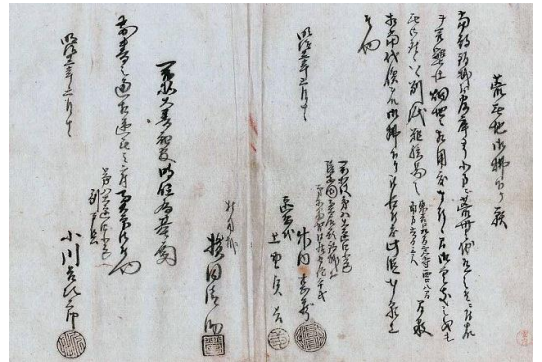
早瀬忠太郎 壮年期 大書記官 時任為基 初代戸長 竹内甚蔵

- ・友達:上野鉄蔵、田中兄弟(助太郎:本名清吉、政太郎)、横田兄弟(時太郎、秋蔵)、米沢政七、上野はま、小浜じゅん、菅千代、田中清吉、夜原金蔵、小浜定吉、若松栄作(上級生)
- ・球島、谷地、武士川(各1～3戸)
- ・赤石(～4戸):小浜(藤三郎?)
- ・恩願浜(～2戸):坪谷
- ・薬師・初松前(各3戸):田口多七(本島最古)
- ・青苗(～20数戸):早瀬文治郎(忠作の義父)、岡本、米内鳳雄(唯一の医者、明治10年から奥尻で寺子屋)
- ・防風浜・無縁島(各1戸)
- ・幌内温泉(1戸):竹内甚蔵元戸長(明治17年死去)の遺族
- ・勝澗(1戸):山科(物識り)

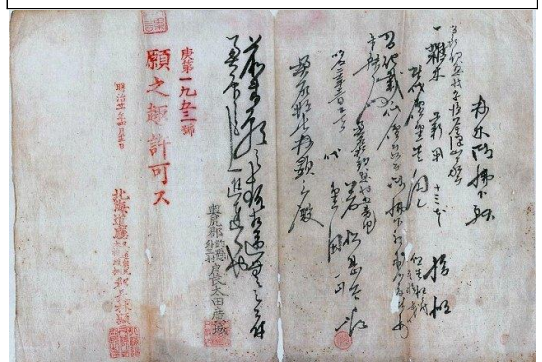
統計上は、明治20年時点で、188戸、634名(男354名、女280名)、本籍人口398名でした。地区別では、釣掛(奥尻)94戸351名、赤石25戸126名、薬師(松江)18戸91名、青苗51戸174名となっています。

子どもの見識と行動範囲を考えれば、これらの人々よりもっと多くの人物が活躍していたであろうと想像されます。忠太郎少年は奥尻地区在住でしたので、遠かった青苗地区の状況についてはあまり把握していなかったようです。いづれにしても、上記の人々が現在の奥尻の基礎を造ったことは間違いありません。奥尻の先人達と言えます。

参考に数少ない当時の行政文書を載せます。竹内甚蔵、上野貞吉、横田清吉、小川吉次郎、若松甚太郎などの名前が読み取れます。



前書之通相違無之二付奥印仕候也	開拓大書記官時任為基殿	後志国奥尻郡釣掛村	荒無地御下ケ願
第八大区四小區	村用掛 横田清助	第五番地住居	村官庫ヨリ北方二荒無地有之候二付右
明治十二年六月十日	小川吉次郎 印	竹内甚蔵 印	無御座仕畑地二紙粗度奉願候間御差支之義も
		上野貞吉 印	西口八間南方六間三尺間敷
		横田清助 印	相当代価ヲ以御払下ケ被仰付度此段奉願上
			相也



前書願之趣相違無之二付	奥印之上進達無之也	奥尻郡長林頭三殿	奥尻郡釣掛村五番地
奥尻郡釣掛外三村戸長太田廣城	奥尻郡長林頭三	明治二十年十二月廿七日	代 金田正太郎
庚第一九五三號	願之趣許可ス	奥尻郡長林頭三殿	奉願候也
北海道庁久遠奥尻太櫛瀬棚郡長林頭三	印	印	右記載代価を以て御払下被成下度候段
			一雜木 薪用也
			当郡釣懸村字塩釜沢山本
			材木御下ケ願

解読には江差町宮原浩学芸員にご協力いただきました。

